

令和4年8月24日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

石川県		
学校名	管理機関名	設置者の別
石川県立金沢泉丘高等学校	石川県教育委員会	公

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
石川県立金沢泉丘高等学校	<a href="https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%AE%A4/%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%8A%B6%E6%B3%81">https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%AE%A4/%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%8A%B6%E6%B3%81</a>

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
石川県立金沢 泉丘高等学校	<a href="https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%AE%A4/%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%8A%B6%E6%B3%81">https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%AE%A4/%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%8A%B6%E6%B3%81</a>	<a href="https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%AE%A4/%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%8A%B6%E6%B3%81">https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%AE%A4/%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%8A%B6%E6%B3%81</a>

3. 特別の教課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

保護者には随時活動内容を広報するとともに、地域住民には年1回の学校公開時や学校関係者評価委員会・学校評議委員会の場で教育課程や活動の意味や意義について説明する場を設けている。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、以下の目標に向け実施するものである。

- (ア) グローバル社会における諸問題を考察するために必要な知識と視点を獲得するとともに、科学的な思考力を身につけ、ものごとを文理両面から捉える力を涵養する。
- (イ) 「環境・エネルギー」と「豊かさとコミュニティ」について研究・調査するための土台をつくる。
- (ウ) SDGs など、現代の社会的事象・課題に対する関心・問題意識を醸成する。

以上の目標は、SGHの5年間と合わせ7年間にわたり教育課程の特例を活用することでおおむね達成できたものの、一方で、「SG思考基礎」で扱う内容と総合的な探究の時間「SG探究基礎」が重複するという課題があり、解決する必要がある。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

これからの社会で求められる資質・能力の育成に向け、文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成、探究手法や指導体制の確立、教科等横断的視点からのカリキュラム・マネジメント等により教育活動の質の向上を図ってきた。その軸となる教科・科目等として「SG思考基礎」や総合的な探究の時間「SG探究基礎」が位置付けられている。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

4(1)に示した課題を踏まえ、令和4年度からの教育課程では、特例を用いるのではなく、既存の教科・科目等により、これまでと同等以上の教育効果をねらうこととした。具体的には、以下の取り組みを行う。

- (ア) 総合的な探究の時間「SG探究基礎」での課題研究を軸とし、1・2年生の通常授業も含めた教科横断・教科連携的なプログラムに組み直す。
- (イ) その例として、環境問題の1つである海洋ごみの現状を知るフィールドワークと、理・社の授業における事前・事後学習を組み合わせる。